

地域福祉団体アンケート結果

アンケート概要

今後の地域福祉の推進にあたっては、地域団体が関係機関と連携していくことが重要とされることから、校(地)区社会福祉協議会に協力を依頼し、地域団体が抱える課題や取組の状況及び関係機関との連携の意向についてアンケートを実施した。

■実施対象：校（地）区社会福祉協議会 155団体

■実施期間：令和7年5～6月

■実施方法：団体宛て郵送

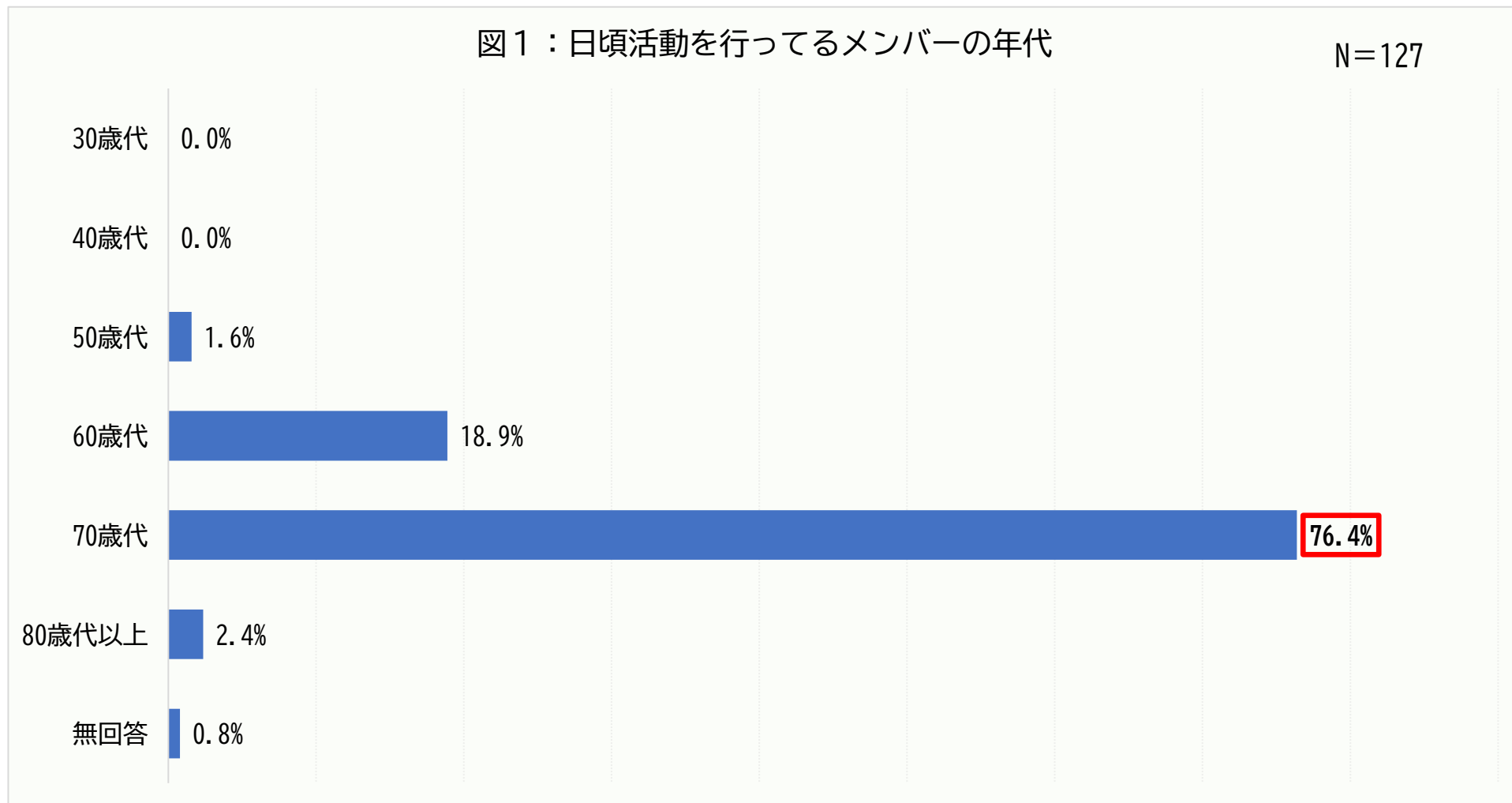
回答は郵送またはオンライン

■回答数：127団体（うちオンライン回答16団体）

■回答率：81.9%

団体の活動者の中心年代

- 最も多かったのは「70歳代」のおよそ8割で、「30歳代・40歳代」はなかった。
- 「50歳代」が1.6%の一方、「80歳代以上」は2.4%。



※60歳代、70歳代、80歳代の3つを回答した1団体については、70歳代で集計

地域住民が抱える課題について

① 校(地)区の住民が抱えている課題のうち、特に重要だと考えるもの(上位3つ)

- 「地域住民のつながりの希薄化」との回答が最も多く、57.5%であった。
- 「高齢者の介護や生活支援」「高齢者の介護予防・健康づくり」「防災・災害時の対応」については、それぞれ4割を超える結果となった。

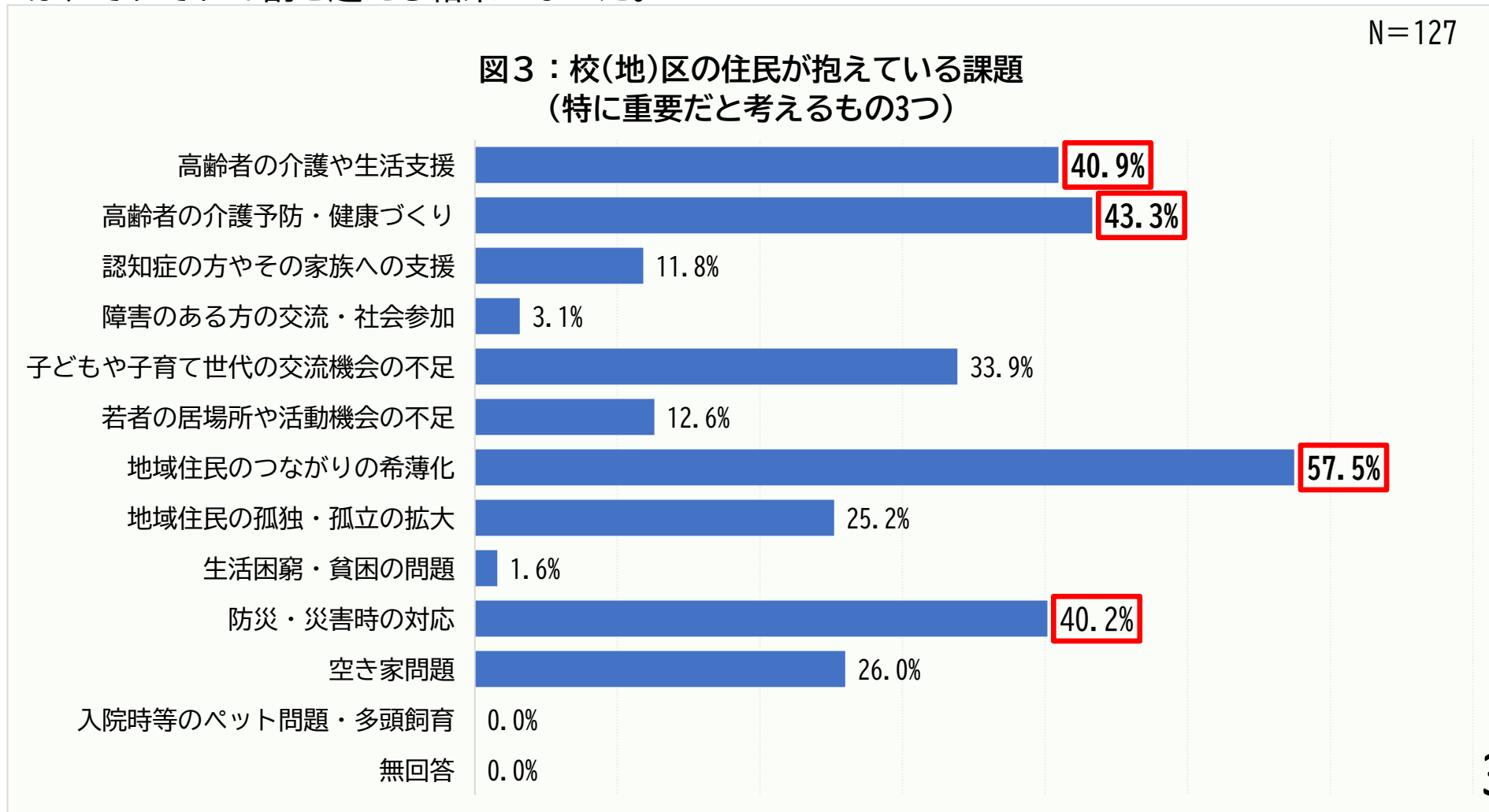


表1：特に重要だと考える住民の課題（その他自由記載）

ごみの問題
校区に小売店が一軒もなく、買い物難民の問題
低年齢の子供たちの夜遊びやいたずらに対する対応
親となかなか話し合いができない。（子どもを叱っても、親の想いが分からない）
全世代が交流する行事がない
ヤングケアラーに対する支援
支援を必要とする人の実態をつかめていない。

② 校区の住民が抱えている課題解決のため、力を入れて取り組んでいる活動(複数回答)

- 「見守り活動」が最も多く85.8%、次いで「高齢者サロンなどの居場所づくり活動」が72.4%、「連絡調整会議での話し合い活動」が67.7%であった。

図4：校(地)区の住民が抱えている課題解決のため力を入れて取り組んでいる活動

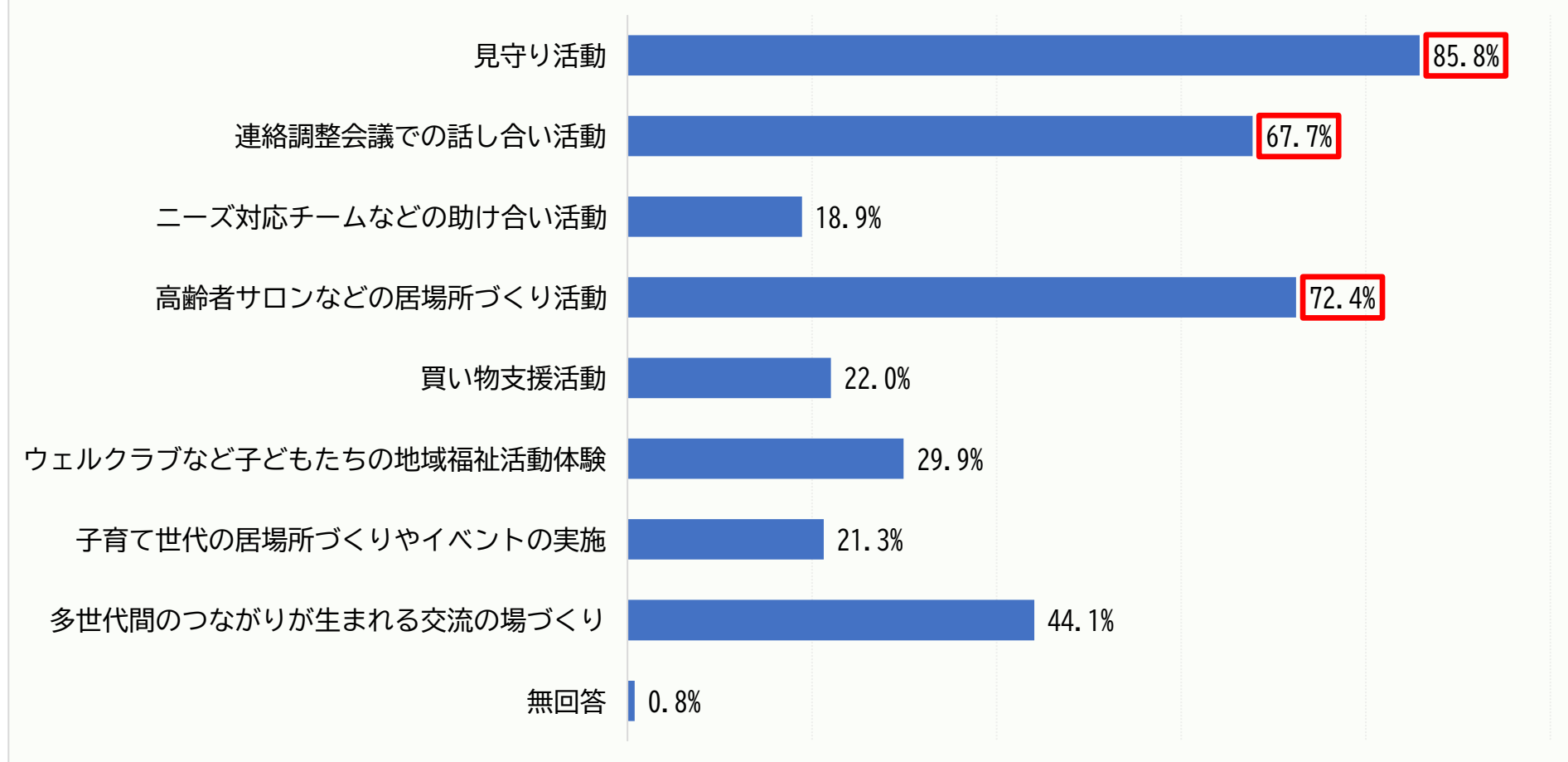


表2：住民の課題解決のため力を入れている活動（その他自由記載）

連絡調整会議で、元気な人の状況、施設入所、入院、通院、亡くなった人などの報告を行っている。
高齢者が施設に頼らない自力生活の確保
行事に積極的に参加を呼びかける。
祇園太鼓の伝統街区なので、祭りの時期に色々な交流がある押さえどころとしている。
餅つき、スイカ割り等の行事に参加する人数は確保できても、単発に終わり、多世代交流・つながりづくりに成果は上がっていない。
検診や地域行事等、健康づくりに力点をおく。
あいのりタクシー・わいわい市場・朝のラジオ体操の実施
サロン活動を実施
スーパーの移動販売を利用している

団体の活動上の課題について

③ 校(地)区社会福祉協議会の活動上の課題のうち、特に重要だと考えるもの(複数回答)

- ほぼすべての団体が「担い手不足・若年層の参加が少ない」ことが課題であると回答した。
- およそ半数の団体が「地域福祉の更なる活性化」と回答し、3割程度の団体が「活動に要する財源不足」と回答した。

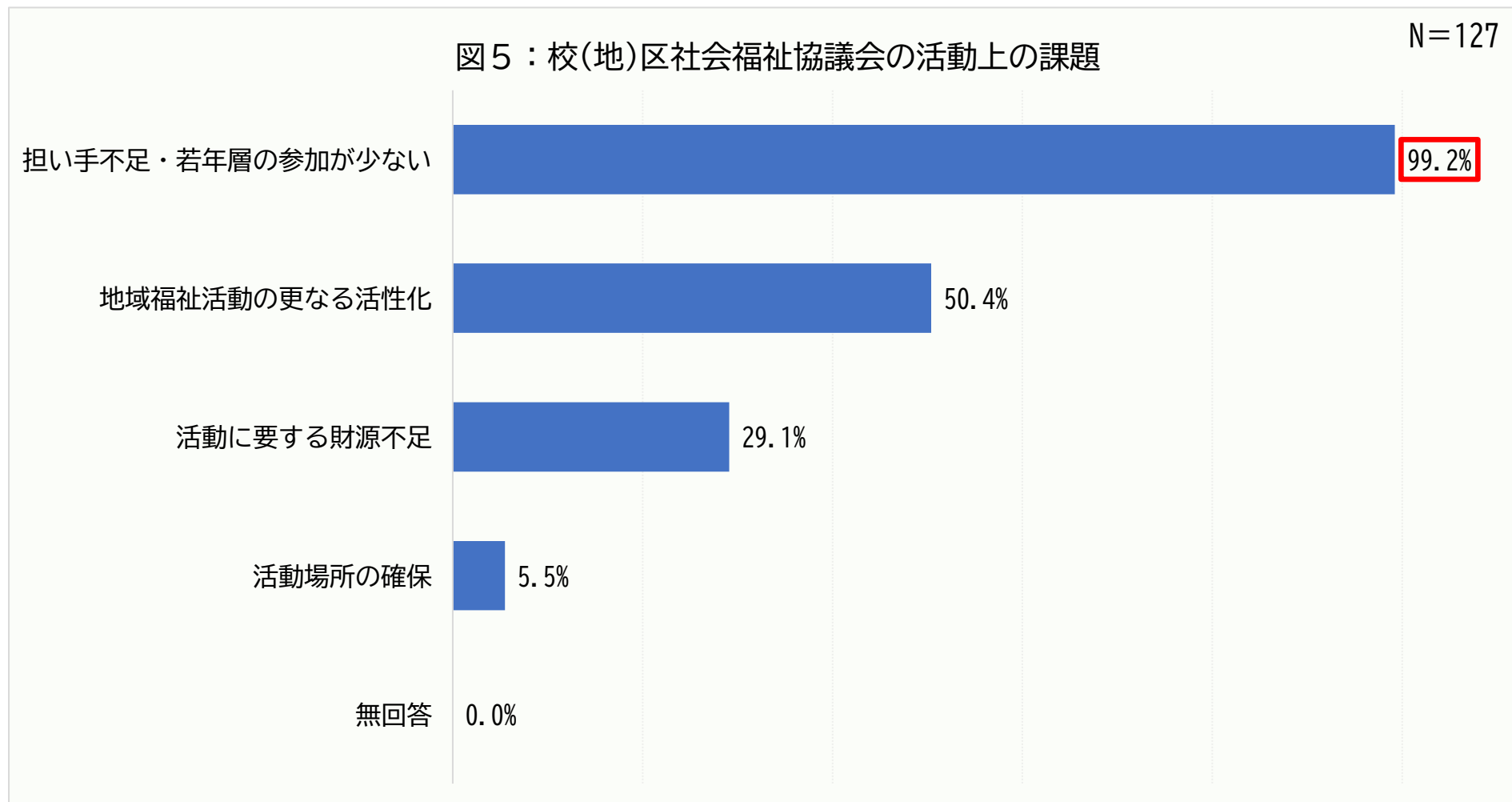


表3：特に重要だと考える活動上の課題（その他自由記載）

出席する人がいつも一緒（地域活動が広がらない）

現役期間が長く、自治会活動への参加希薄

活動が80歳代中心で、民生委員の引き受け手がいない。独居や親族との関係薄く、深く関わる必要がある人の増加

高齢の役員のための活動のため、活動が限定される。働く高齢者が多くなり、役員やボランティアの確保が難しく、組織の継続が危惧される。

会長が校区外に転居し10年経つが、後任が決まらない。

現役・共働き世代が多いため、町内会長は1年で交代、子ども会は役員のなり手がいないため解散するなど、地域に関心があっても活動するヒマがない住民が多い。また、地域福祉活動に対する関心が低い。

町内会の役員（町内会長、副会長、会計）のなり手がいないため、町内会を解散する。

自治区会離れ、シニアクラブ解散

主な活動拠点である市民センターが、急坂を上った高台にあり、また1，2階が保育所で市民センターは3階にあるため市民が立ち寄りにくい環境にある。

広報、連絡の接点が限られていて、周知できていない。

地区が広範囲にわたっており、また各地区の特色があるため、統一した活動ができにくい。

各種行事等、企画運営をしてくれる人がいない。

活動内容のマンネリ化

地区内の他団体との協働

地域活動を支える自治体、社協、子ども会等の団体連携がスムーズにできない場合、地域のパワーが減衰する。

④ 校（地）区社会福祉協議会の活動上の課題解決のため、取り組んでいるもの(複数回答)

- 「自治会など同じ地域の地縁団体と協働している」が最も多く76.4%、次いで「イベント参加者などから地域活動の担い手の掘り起こしを図っている」が63%であった。
- 半数以上の団体が見守り・話し合いに取り組んでいると回答した。

図6：校（地）区社会福祉協議会の活動上の課題解決のため工夫していること、取り組んでいること

N=127

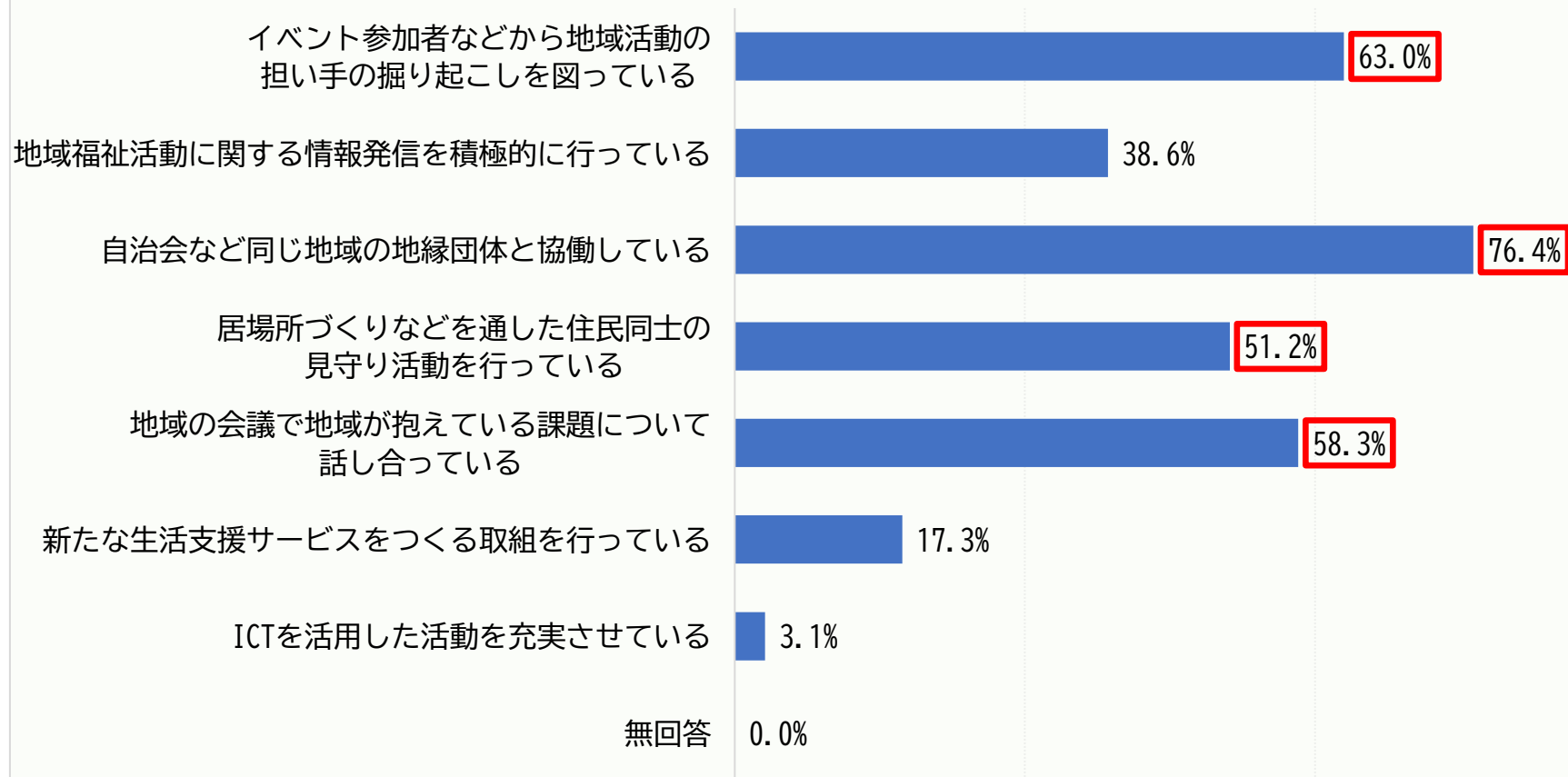


表4：活動上の課題解決のため取り組んでいる活動（その他自由記載）

福祉協力員の増員を行っている。

高齢者等に日常生活での困りごと等アンケートを行い、ニーズの把握に努め、きめ細やかな支援につなげていきたい。

小地域福祉活動計画を作成し、活動を推進してゆく。

地域のイメージアップや住民の住みよいまちづくり活動等、人口減少を止める活動

地域福祉活動に関する情報発信として「社協だより」を年4回発行し、地区全世帯に配布している。

自治会の回覧を利用した広報活動

校区内の学生のイベント参加をお願いしている（交流会も実施）。

サロン活動や子どもたちの親睦活動に大学生に参加してもらっている。

地区内の社会福祉施設と協働でサロン活動を実施

NPO法人と協働し、移動販売時に見守りを強化している。

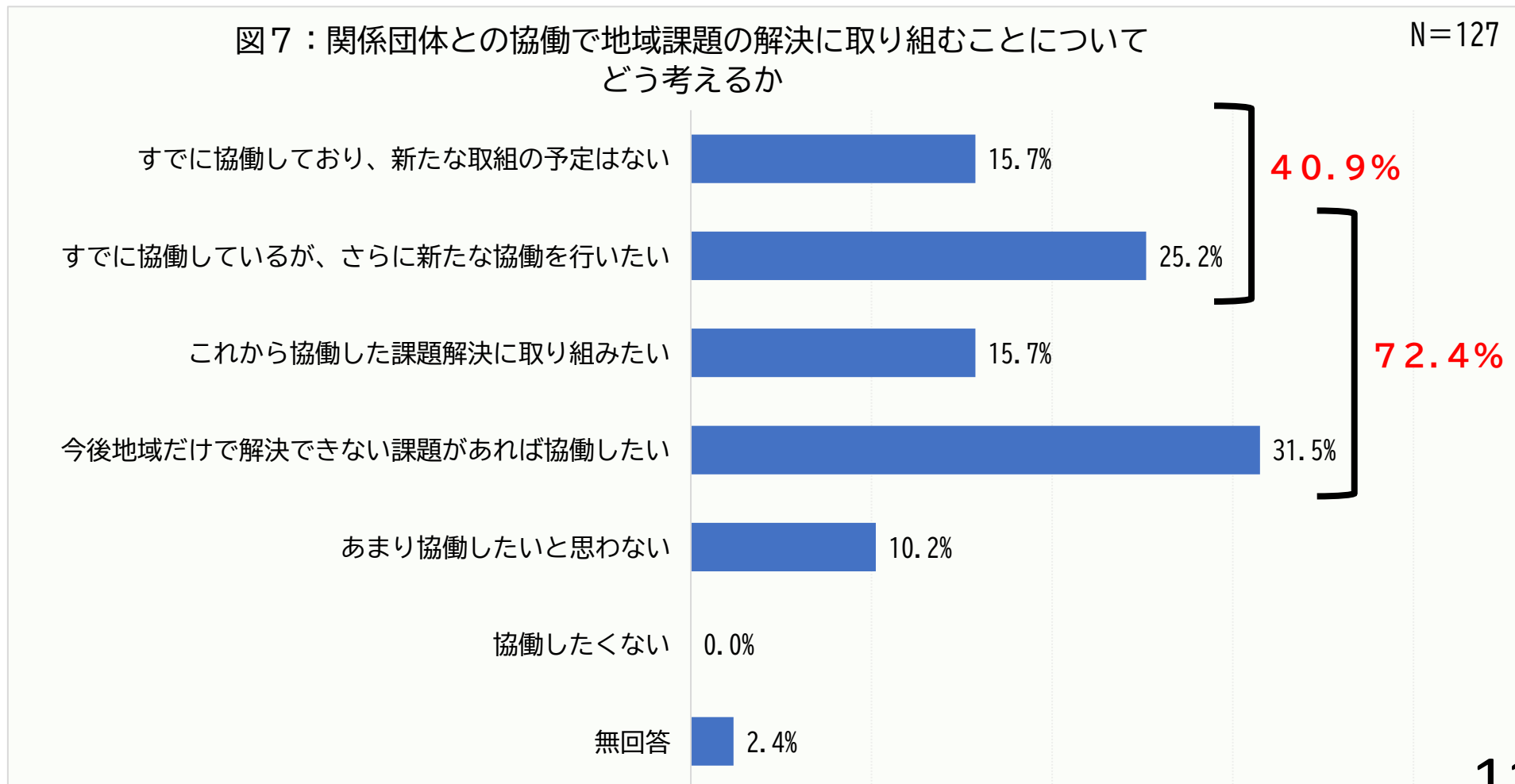
民児協との連携

他の校区社協との交流を持ち、情報交換をしている

関係機関との協働について

⑤ 関係団体^注との協働で、地域課題の解決に取り組むことについてどう考えるか

- 約4割の地域団体が、すでに関係団体と協働していると回答した。
- 7割以上の地域団体が、今後も協働したいと回答した。



注…NPO・ボランティア団体、企業、社会福祉施設、学生などの団体

⑥ 関係団体と協働で解決に取り組みたい課題にはどのようなものがあるか(自由記載)

表5：連携して解決に取り組みたい課題

※⑤で、今後関係団体と協働する意思を示した団体のみ回答

高齢化した団地の独居高齢者の見守り、住民のつながりの強化、団地町会役員代行などに、大学生やNPOの力を借りたい

社会福祉施設とのつながりを深め、高齢者等の悩み事、相談事の橋渡しができる活動を考えたい。

身近な困りごとに対応する「お助けマン」活動

困りごとネットワーク

買い物支援

大学生とスマホを活用した検索模擬訓練の実施

ウェルクラブ活動の充実のためのノウハウを学びたい。

子育て支援や食支援のため、子ども食堂をやりたい。

自然災害の多発に備え、専門家の知恵を借りたい。

災害時の対応について関係機関とより細かく取り組みたい。

校区の自然環境を最大限に生かしたまちづくり

空き家対策

将来的に安定した財源が必要。地域の生産物のブランド化に取り組むことで財源確保はできないか、知恵・アドバイスをいただき、協働で安定した財源確保に取り組みたい。

校区の再編成